

トビイロウンカ、カメムシ類の防除について

【トビイロウンカ】

今年度は、6月7日に飛来を初確認しており、その後も断続的に飛来が確認されています。6月5半旬の調査では、県内の発生量は平年よりやや少ない状況ですが、小倉南区の箱施薬剤未使用田では、防除を必要とする発生量を確認しています。今後も断続的に飛来する可能性がありますので、今後の管理情報に基づき防除の徹底をお願いします。

ほ場により発生程度が異なります。効果的な防除を行うためにも、田回りを行い下記図を参考に第2世代幼虫を中心に防除を実施してください。例えば8月8日頃の防除だと、第一、第二飛来に効果が高い時期となっています。また、状況に応じて、追加の補正防除も視野に入れてください。防除薬剤については、水稲暦や注文書を参考にしてください。



収穫前の圃場の様子(坪枯れ)



株元の様子

初期段階では、圃場内で所々、円形状に水稻の色が淡く見えます。

上の写真のように、株元にトビイロウンカが大量について、黒ずんでベトベトしているのが特徴です。防除の目安は第2世代幼虫で100頭/100株です。



(注) (1) 发育零点12.0℃、发育上限温度28.5℃、发育停止温度33.0℃、有効積算温度(成虫期間106.0℃・卵期間109.4℃・幼虫期間189.4℃)

(2) 気温はアメダス太宰府を使用(7月13日まで実測値、以降は平年値)。

ほ場を注視しましょう

【カメムシ類】

5月の水稻管理情報No2で情報提供した「イネカメムシ」について、JA北九管内でも確認されました。また、ミナミアオカメムシの発生量が、遠賀町では平年の約9倍と、かなり多く推移しており注意が必要です(表1)。出穂2週間前の畦草除草(本田の飛び込み防止)と、基幹防除の徹底が重要です。下記(表2)の薬剤を参考に適切な防除をお願いします。



イネカメムシ(左)とミナミアオカメムシ(右)

斑点米(被害粒)

(表1)ミナミアオカメムシの予察灯誘殺状況 福岡県病害虫防除所より(7/10時点)

月	遠賀町		県内5地点合計	
	本年	平年	本年	平年
5	2	2.1	36	15.0
6	104	1.2	142	18.5
7	423	56.3	516	105.8
合計	529	59.6	694	139.3

(表2)カメムシに対する薬剤例

名称	希釈倍率 使用量	散布液量 (ℓ/10a)	使用 回数	使用時期
アルバリン 顆粒水溶剤	2000倍	60～150	3回	収穫7日前まで
アルバリン 粉剤DL	3kg/10a	－	3回	収穫7日前まで
キラップ フロアブル	1000～ 2000倍	60～200	2回	収穫14日前まで
キラップ 粉剤DL	3～4kg/10a	－	2回	収穫14日前まで